

三朝町

三 朝 町

連絡先：三朝町教育委員会 社会教育課
(総合文化ホール内)

電 話：0858-43-3512 F A X：0858-43-0647

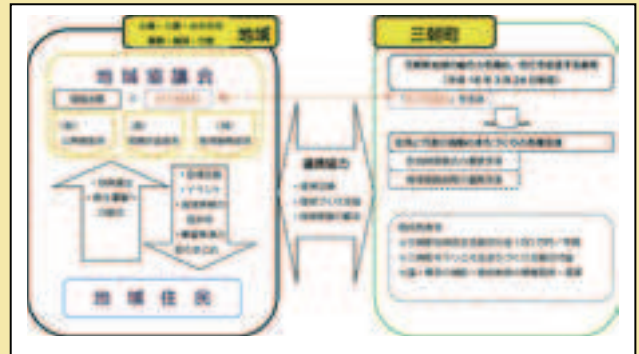
<三朝町の概要>

人 口：7,015 人
世帯数：2,385 戸
高齢化率：32.7%
(平成 22 年国勢調査)



協議会：小鹿地域協議会、三徳地域協議会、みささ村地域協議会、高勢地域協議会、賀茂地域協議会、竹田地域協議会

町と地域協議会との関係イメージ



【地域協議会組織設置に至る経過】

危機的な財政状況の中、市町村合併をすることなく持続可能で元気な町にするには多様な住民ニーズに対応する地域住民自治組織が必要である。公民館活動分野と地域振興分野を一体化させた組織(地域協議会)を設立するため平成 18 年 3 月「地域の総合力を高め自立を促進する条例」を制定した。その後、各地域に設立準備会が立ち上げられ組織づくりの検討等を重ね、旧公民館を単位として 6 地域協議会が設立された。

【行政と地域協議会の関係】

町の支援状況

- ・人的支援：設立準備から設立後 1 年担当主事(6 人)を配置、2 年後担当職員 2 人を配置し、平成 26 年度は担当職員 1 人を配置(現在)している。
- ・財政的支援：各地域協議会に三朝町地域自主活動支援交付金を一律交付している。その他には既存の補助・交付金等を活用して事業を支援している。
- ・支援員の設置状況：町役場の全職員が地域協議会の活動を支える支援員として位置付けている。

平成 17 年度	・三朝町地域の総合力を高め、自立を促進する条例を制定
平成 18 年度	・6 地域協議会発足 小鹿地域協議会、三徳地域協議会、みささ村地域協議会、高勢地域協議会、賀茂地域協議会、竹田地域協議会

【これまでの成果】

各地域協議会が、地域の総合力を高めるため、地域の課題を洗い出し、地域協議会で出来ることを着実に実行しながら取り組んできた。例えば、環境パトロールの、不法投棄の監視、道路の危険箇所をなくす取組を実施。地域のにぎわいを創出する泥んこバレー大会、竹田御膳を楽しむ会、温泉芋煮会、もみじ祭りなど地域の特色ある活動を実施されてきた。

【課題と展望】

小学校統合(予定)に伴う今後の地域のあり方、人材育成、高齢化、人口減少など多くの課題がありますが、自主自立の精神をもって「知恵を出し合い、汗をかき、時には身銭をきってでも」という気持ちを持っておられる協議会ですから、住民自治意識の高揚と地域の総合力を高めながらいきいきとした暮らしの実感できる地域づくりを進めていただけることを期待しています。



泥んこバレーボール世界選手権大会 開会式の様子

中部

三朝町

賀茂地域協議会

<団体概要>(平成 26 年 4 月現在)

住所 〒682-0152 東伯郡三朝町本泉 359-1

設立 平成 19 年 1 月
代表者 会長 牧田 幸一郎

構成員 賀茂地域全住民
集落数 13 集落

電話 0858-43-1875

FAX 0858-43-1883

<参考>賀茂地区の概要
(平成 22 年国勢調査)

- ・人口 1,817 人
- ・世帯数 554 戸
- ・高齢化率 27.1 %



▲ 賀茂地域協議会活動拠点



牧田 幸一郎会長

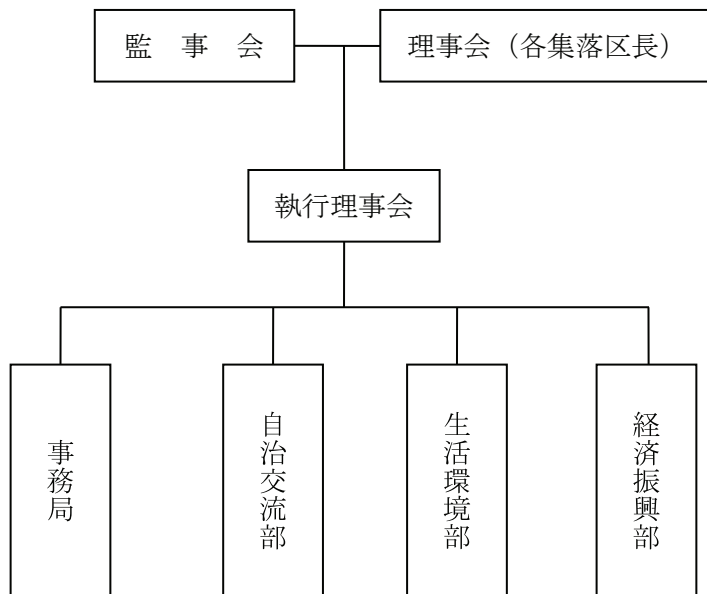
◆◆◆代表者のコメント◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

- ・地域活性化、地域の絆のため、地域での交流を継続していきたい。
- ・どろんこバレーのイベントでは、地域外からの参加者が多い。幅広い交流を心がけており、町の活性化にもつなげていきたい。

主な取組の概要

- ・地域ビジョンを考え、生活の向上、他地域・集落間の交流事業、集落自治機能の回復、地域情報誌の発行。
- ・生活環境の維持発展のため、除雪対策、道路整備、環境・景観整備、防災、交通安全、防犯対策を行う。
- ・農林業及び特産品の開発振興のため、地産地消の推進、集落営農の推進。
- ・住民福祉増進のため、健康づくり対策、高齢化対策を行う。
- ・青少年育成、子育て支援、少子化対策、結婚対策などを行う。

◆ 組織図 ◆



◆ 刊行物 ◆



◆ 活動写真 ◆



▲ どんこバレーの様子(自治交流部)



▲ 賀茂まつり(自治交流部)



▲ 笑いの健康講習会(生活環境部)



▲ 竹炭など作製(経済振興部)

取組に至る背景・経緯・目的

- ・平成 17 年の賀茂地区公民館の役員会で活動のマンネリ化が問題となり、組織改革の検討をはじめ、平成 19 年に賀茂地域協議会として発足した。
- ・自主自立の精神をもって、集落を中心に住民自治意識の高揚と地域の総合力を高めながら、いきいきとした暮らしが実感でき、次世代へ託せる地域づくりを目的に活動している。
- ・自治交流、経済振興、生活環境の各部会が中心となって、地域のビジョンに沿って実行していくことを目標としている。

取組の成果

- ・運動会や地域のお祭りなどを継続することで、参加者同士の交流や、高齢者の方々の健康状態の確認にもつながっている。
- ・緑化運動の一環で、毎年各集落で草取りや花の手入れを通して、地域の中で世代間交流の場となっている。
- ・平成 24 年 11 月、共同活動を推進され地域社会の活性化に貢献した功績が認められ県知事表彰を受けた。
- ・平成 25 年 5 月、第 64 回全国植樹祭で「森のめぐみを活かす」活動が認められ県知事表彰を受けた。

取組に工夫・苦労した点

- ・イベントの参加者が少なくなってきており、人員の確保に苦労している。
- ・若者にイベント等に参加してもらうために、どう工夫していけばいいか苦労している。

今後の取組内容・長期的な目標

- ・公民館時代の先輩方が行ってこられた事を継続していきたい。
- ・今後、地域活動やコミュニティの新たな拠点を検討していきたい。
- ・若者たちが地域で活動できるような場所や設備を検討したい。

中部

三朝町

竹田地域協議会

<団体概要>(平成 26 年 4 月現在)

住所 〒682-0303 東伯郡三朝町穴鴨 168-1
設立 平成 19 年 1 月
代表者 会長 早栗 永人
構成員 会員 約 60 名
区长 13 名
集落数 13 集落

電話 0858-44-2535
FAX 0858-44-2535

<参考>竹田地区の概要
(平成 22 年国勢調査)

- ・人口 740 人
- ・世帯数 258 戸
- ・高齢化率 41.6 %



▲ 竹田地域協議会活動拠点



早栗 永人会長

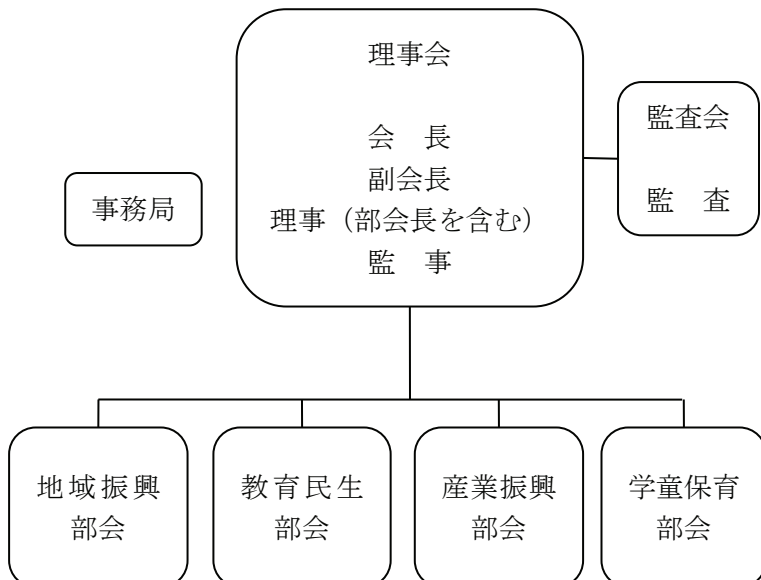
◆◆◆代表者のコメント◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

地域住民の一人一人が、それぞれの得意を活かして力を出しあい、竹田地区がこれまで培ってきた歴史・文化・慣習・地域活動を守り、今を預かる我々の責任としてこれからも続くよう継承していく。

主な取組の概要

- ・地域振興部会は、各区長の集まりで、集落と協議会のパイプ役を担う。他に草刈りボランティア作業を行っている。平成 23 年には生活交通の試験運行を行った。
- ・産業振興部会は、地域の特産品としてワサビやウドを栽培し「竹田御膳を楽しむ会」を開催している。大谷カバンを継承するためガマ田を管理している。
- ・教育民生部会では、年間を通したスポーツ大会、独居や高齢者の方の見守り活動として年 2 回の配食サービスや 2 年に 1 回の竹田まつりを行う。
- ・学童保育部会では、学童保育と月に 1 回の「土曜楽校」を行い、保護者と児童が遊びを通じ、地域とのつながりを学んでいる。

◆ 組織図 ◆



◆ 刊行物 ◆



▲ 毎月発行「竹田通信」

◆ 活動写真 ◆



▲ 草刈りボランティア
(地域振興部会)



▲ 生活交通試行運転(地域振興部会)



▲ 竹田御膳を楽しむ会
(産業振興部会)



▲ ウドの植栽(産業振興部会)
学生人材バンクのお手伝いではかどる作業



▲ 地域の伝統工芸品
「大谷カバン」



▲ 高齢者への配食サービス
(教育民生部会)



▲ みささ南土曜楽校
(学童保育部会)

取組に至る背景・経緯・目的

- ・平成19年に地区公民館が廃止されたことを契機に、同年1月28日に地域協議会を設立した。
- ・生活交通を検討し試験運行を行ったことにより、将来的な課題を明らかにすることができた。
- ・地域内でお互い協力し合って見守り活動や地域での助け合いを行っている。

取組の成果

- ・地域の行事への参加者が多く人材に恵まれ、竹田地域以外からも様々な協力をいただくことで地域の事業等が円滑に進んでいる。
- ・生活交通として試験運行を行ったが、PR不足もあり利用者が少なく、今後の課題として残っている。
- ・大谷カバンを活用し、後継者づくりのための教室を開催して後継者育成に励んだ。

取組に工夫・苦労した点

- ・地域の食材を使った年2回の「竹田御膳を楽しむ会」が定着し知名度が上がった。今では、県内各地からリピーターが多い。
- ・大谷カバンは、メディアに取り上げられたことで、問い合わせが増加した。また原材料のガマの育成とカバン以外の製品開発を考える。

今後の取組内容・長期的な目標

- ・生活交通は将来的な検討とする。
- ・高齢者が安心して暮らせるような地域づくり。
- ・大谷カバンが欲しいという需要に現在対応できていない状態。今後対応できるよう取り組んでいきたい。
- ・小学校の統合による地域活動の低下を回避したい。

中部
三朝町
小鹿地域協議会

<団体概要> (平成 26 年 4 月現在)
住所 〒682-0146 東伯郡三朝町高橋
設立 平成 19 年 1 月
代表者 会長 森広 重幸
構成員 小鹿地区住民 588 戸
集落数 18 集落
電話 0858-43-1932
FAX 0858-43-1932



▲ 小鹿地域協議会活動拠点

<参考> 小鹿地区の概要
 (平成 22 年国勢調査)
 ・人口 588 人
 ・世帯数 182 戸
 ・高齢化率 40.3%



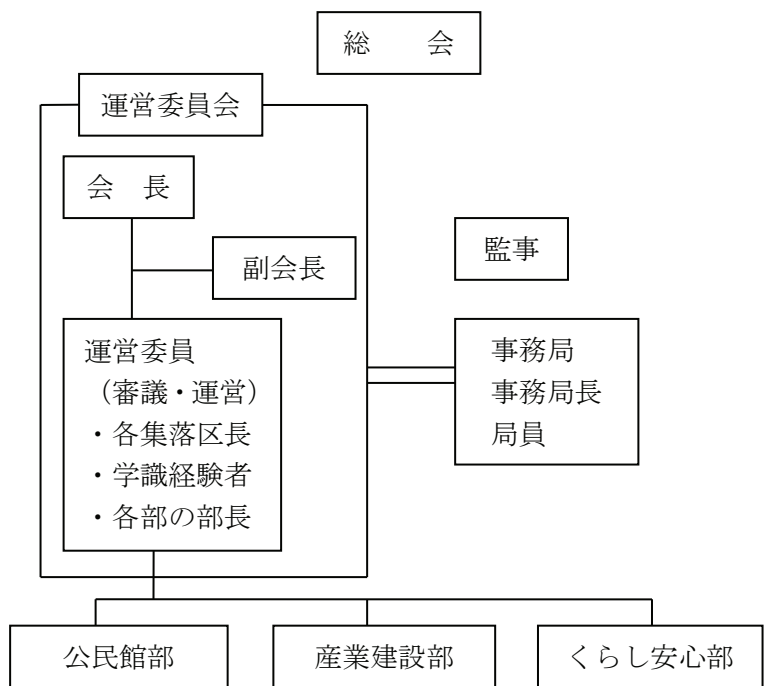
森広 重幸会長

◆◆◆代表者のコメント◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆
 少子高齢化が年々進んでいますが、緑豊かな大自然、清流豊かな小鹿川、温かい人々の住む、誇れる地域であることは、なんら変わることはありません。
 「老いも若きも心は一つ 明日に向かって羽ばたこう」をスローガンに、“小鹿ならではの”地域の実現に頑張りたい。

主な取組の概要

- ・公民館部、産業建設部、くらし安心部の 3 部構成で運営。
- ・公民館部では、校区の総合運動会や、毎年 6 月に鳥取市河原町との交流会、小鹿川と親しむ会、小鹿溪の遊歩道の整備、女性会の視察等を行っている。
- ・産業建設部では、小鹿溪の一斉清掃、特産物(神倉大豆)振興、もみじ祭、害鳥獣対策などを行っている。
- ・くらし安心部では、花いっぱい運動、結婚祝い金、入山禁止の立札(山菜をとる部外者への対策)、投棄パトロール、老人クラブの支援の他、東小クリーン活動(高齢者と児童の交流活動)等を行っている。

◆ 組織図 ◆



▲ 毎月発行される地域がわかる協議会だより

◆ 活動写真 ◆



▲ 小鹿川と親しむ会(公民館部)



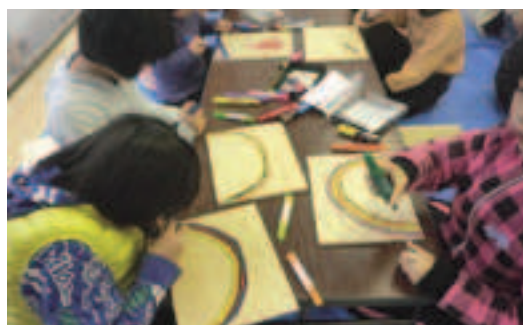
▲ 町立東小クリーン活動(くらし安心部)



▲ 女性会視察研修(公民館部)



▲ 神倉もみじ祭(産業建設部)



▲ 毎年開催される子どもまつり(東小児童)

取組に至る背景・経緯・目的

- ・「地域の事は地域で守ろう」町の条例制定を機に公民館制度を廃止。地域協議会を設立し、8年目となる。
- ・小鹿地域協議会は「未来を語り、新しい小鹿の力をつくろう」をテーマに地域づくりを行う。

取組の成果

- ・イベントを通じ、年々交流の輪が広がっている。地域住民が一丸となりイベントが持続し、さらに次世代に受け継がれ、継続されていることがなによりの成果。

取組に工夫・苦労した点

- ・地理的に鳥取市と近く、以前から河原町西郷地区との交流があったことから現在も途絶えることなく交流が継続できている。
- ・集落間で密に連絡を取ることで地域の結束が強くなり、結束しているからこそ地域外の方にも喜んでもらえるイベントができる。

今後の取組内容・長期的な目標

- ・地域外のイベント参加者だけでなく、地元の高齢者や子ども達、またその親が今以上に気軽に参加し、楽しんでもらえる内容を今後取り入れていきたい。
- ・小鹿にしかない、自然や人、文化を地域内でもっと共有し、今後工夫し後世に残していきたい。



▲ 河原町西郷地区との交流グランドゴルフ(公民館部)



小鹿川を楽しむ会
ぜひお越しください